地域医療連携室

フレンディーだより

Community medicine cooperation room

当院の教室案内

パパも一緒に参加しよう！

産 前 教 室

『child Birth Class』



日時：　毎月第３水曜

９：３０～１１：３０

場所：　３階　指導室

参加希望者が多い場合は
人数の制限をさせていただきます

対象者

妊娠 30 週以降の妊婦
夫とともに参加可能

持ってくるもの

母子手帳、ピンクファイル
筆記用具、飲み物など

お問い合わせ：産婦人科外来にて受付しています

産前教室

教室の指導内容

出産の流れ、サポート体制、産後の生活について

講師担当職種：助産師

妊娠期の姿勢と運動

講師担当職種：理学療法士





2026
vol.84

R8.10 発行

黒部市民病院 黒部市三日市 1108-1
E-mail：friendy@med.kurobe.toyama.jp

診療科紹介

呼吸器内科

当院呼吸器内科では、肺癌をはじめ、肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎など、呼吸器疾患全般を幅広く診療しています。肺癌では、精密検査から薬物療法、放射線治療、手術を含む集学的治療、治療後の経過観察まで一貫して対応し、分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬など最新の治療も適切に選択します。副作用対策や支持療法にも配慮し、患者さんの病状や生活背景、希望に応じた診療を心がけています。地域の医療機関や訪問看護事業所との連携を密にし、急性期から在宅療養まで切れ目のない医療を提供できるよう努めています。



腎臓リウマチ内科

腎臓リウマチ内科では、検尿異常などのプライマリケアから、維持透析や緊急透析、血漿交換等のアフェレシスまで、幅広く腎疾患に対応しています。初期段階の症例を中心に、地域のクリニックの先生と連携してフォローさせていただきます。

また、関節リウマチや膠原病などの免疫疾患についても、診断や治療を行っており、難治症例には最新の薬物療法も行っております。



消化器内科

平素よりお世話になっております。

当科では消化器疾患全般（消化器疾患、肝胆膵疾患）に対する診断、治療を行っております。通常の内視鏡検査の他、早期癌（胃癌、大腸癌、食道癌）に対する内視鏡治療、進行癌に対する化学療法、膵胆道疾患に対する ERCP（ステント治療や総胆管結石治療など）の他、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）を用いた膵腫瘍、縦隔リンパ節、腹腔内·後腹膜病変、消化管粘膜下腫瘍などからの組織採取の他、ドレナージ治療なども可能です。お気軽にご紹介いただけましたら幸いです。



血液内科

血液内科です。主として、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性骨髄性白血病、急性白血病などの造血器腫瘍の診療を病棟および外来でしております。



脳神経外科外来

脳神経外科医師が３名から２名と減員となりました。マンパワー不足は否めませんが、外来の看護師をはじめとするスタッフに援けられながら診療を継続しています。また，地域連携室や入退院支援室とも密に連絡を取り、患者さんの治療と地域の医療機関との連携にも努めてまいります。



心臓血管外科

主に血管疾患を担当していますが、患者ファーストの理念から、動脈、静脈、リンパ管疾患などの専門分野にとらわれず診療にあたるように務めています。これまで培った 30 年あまりの診療経験を活かし、より良い医療の提供を目指しています。



呼吸器外科

呼吸器外科では、肺癌をはじめとする胸部悪性腫瘍、自然気胸や膿胸といった非腫瘍性良性疾患、胸部外傷などの救急疾患に対する診療を行っています。手術については、身体の負担が少ない胸腔鏡下手術を標準とし、手術支援ロボットを用いた肺癌や縦隔腫瘍の手術も開始しています。また、局所進行肺癌に対する補助療法も最新のエビデンスに基づいた治療を提供いたします。お気軽にご紹介ください。



麻酔科

手術の低侵襲化もあり麻酔科管理の手術件数は年々増加し最近は年間 2000 件超となりました。それと共に患者の高年齢化や麻酔リスクの上昇に対応するため今年から 5 名で診療にあたっております。手術以外にはペインクリニックや麻酔分娩を行っておりますが、こちらもニーズの高まりを感じており微力ではありますが携わってまいります。



理学療法士による骨盤ケア指導



東病棟２階　理学療法士　**小倉　久美子**



指導用物品

理学療法士と聞くと、病気や怪我をされた方にリハビリテーションを行うイメージがあると思いますが、最近では産婦人科領域で働く理学療法士も増えています。

特に、女性の身体は妊娠・出産による身体的変化で骨盤帯が構造的に不安定となり、腰痛や骨盤帯痛、尿もれ等の不調が起こりやすくなります。その不調に対して身体の構造や動きの専門家である理学療法士の視点が注目されており、当院でも令和７年度から産婦人科病棟に配属され、骨盤ケアを担当しています。

骨盤ケアとは、「骨盤周りの筋肉を整え、姿勢や体の安定を改善するための日常的なケア」を意味し、理学療法士による骨盤ケアは、身体機能だけでなく起き上がり動作や授乳姿勢などの生活場面での動作そのものを評価し、その方にあった姿勢や動作方法を指導しています。

身体の回復状況は個人差が大きく、妊娠期や産褥期など時期によっても対処方法が異なるため、妊娠中から産後までサポートできる体制づくりが必要です。

産前教室での運動指導、分娩直後の入院中や産後ケアでの骨盤ケア指導に加えて、令和８年７月からは腰痛や骨盤帯痛のある妊産婦さんを対象に、産前産後のリハビリテーションも開始しました。疼痛に対して、骨盤のアライメント評価や筋肉の機能評価を行った上で、痛みを軽減させるためのアプローチや生活指導を行っています。

指導する上で大切にしていることは、自分の正解を押しつけすぎず、その方にあった方法を一緒に考えることです。指導内容が良くても、無理があると継続することが難しくストレスになってしまうからです。そのためにも、医師や助産師・看護師と情報共有することはとても重要であり、産婦人科病棟に配属されている強みを日々感じています。

妊娠・出産という大きな節目に立ち会えることにやりがいと責任を感じつつ、これからも多職種と連携し、妊産婦さんが安心して出産や育児に臨めるように、寄り添いサポートしていきたいです。


産前産後のリハビリテーション


入院中の骨盤ベルト指導